



〈研究主題〉

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり ～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～

今年度は、各学部の研究対象となる学習グループから児童生徒1名を抽出し、教師が多面的・多角的な視点から、多様な手段で児童生徒の学びを見取ります。見取ったそれぞれの解釈を教師間で共有して指導のあり方や授業づくり等へフィードバックし、児童生徒が主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりを目指しています。今回は、小学部の全校授業研究会について紹介します。

小学部3・4・5年 生活単元学習 「みどりのうどん屋さん3～うどんやさんをひらこう～」

授業者からの授業説明

本単元では、工程を分けて友達と関わりをもちながらうどんを作るという授業である。今後はうどん屋さんを開く準備をし、保護者や教師を招いてうどんを振る舞う予定となっている。

抽出児童について

- 調理活動は好きで意欲的に取り組むが、自分の意に沿わないことには泣いたり、怒ったりして嫌な気持ちを表現し、次の活動への気持ちの切り替えに時間がかかる。
- 手が汚れたり手を洗ったりすることは苦手。製麺機には意欲をもって取り組んでいる。苦手な活動にも、製麺機を励みに取り組むようになってきた。
- 同じクラスの友達の言葉掛けに応じて活動に向かう様子が見られてきている。同じクラスの友達だけでなく、異学年の友達との関わりも少しずつ増えてきた。今後も友達との関わりが増えていくことを期待している。



授業研究会から

参観者は青色の付箋紙に「子どもの言動」(事実)、ピンクの付箋紙に「見取り」(解釈)の2枚の付箋紙を記入します。その2枚の付箋紙を使ってワークショップを行い、子どもの姿から「次時につながるキーワード」を導き出します。

導入	はじめのあいさつの時、タブレットのボタンを正確に押している	学習の始まりの意識が高いのではない	役割カードをよく見ている	自分の役割を文字だけで理解し、安心しているのではない
展開	ねぎを切る活動では、苦手なのか最後までやらなかった	自分のやるべき係だという意識が低かったのではない	水をくむ場面で、行動に移らず遊んでいると、水を入れたカップを持った友達に「水を入れるよ」と言われて立ち上がり鍋に水を入れた	自分で水を入れるのは苦手だったが、友達が水の入ったカップを持ちながら声を掛けたので「鍋に入れるだけならやろうかな」と思って立ち上がったのではない
	のりを切る途中で生地をもらい、製麺機に全力で取り組む	やりたいという気持ちがあるから、活動の途中でも受け入れたのではない		次の活動の時に、友達と手をつないで移動していた
	自分の役割だと思っていたのではない			友達の誘い方が上手だったのではない
				手をつないだことで、行く気になったのではない
まとめ	振り返りの時、教師の話を受けている様子ではなかったが、隣に座っていた友達の番になると良い姿勢になる	「次は自分の頑張りをお話してもらえると分かっていていいのではない	教師に「できましたか？」と聞かれ、タッチをして答える	「がんばったよ」「できたよ」と自分なりに表現したのではない

授業場面における児童の姿を見取っても、先生方によって様々な解釈があった。それぞれの解釈を伝え合い、聞き合いながら参観者全員で「次につながるキーワード」を導き出し、授業者へフィードバックした。

授業研究会から「次につながるキーワード」

- ・「今日がんばること」を明確にする
- ・「自分から」も「やりとり」も「好き」な「得意」なことからやってみる
- ・好きな活動のために苦手な活動もがんばるという見通しをもたせる
- ・作って食べる活動ではなく、友達との関わりをメインにする
- ・振り返りを動画で示す



【指導助言】 秋田県総合教育センター支援班 指導主事 島津 憲司 氏

○授業全体について

- ・一人一人がテーマに沿った活動に意欲的に取り組む姿が多く見られた。本時のめあてについて「お客さんに喜んでもらえるように」という部分も入れてもよいのではないか。
- ・お客さんを招待するという目的のために、他の友達の様子にも関心を向け、みんなで一緒にうどんを作っているという楽しい雰囲気づくりも工夫してほしい。

○抽出児童について

- ・グループでやりとりをしながら個々の活動をする場面が増えていてよかった。本時は自分達で作って食べて楽しむことがゴールの授業だったが、今後はお客さんへのおもてなしが授業のゴールになる単元になっていくと思う。活動の幅を広げて考えることができるのではないか。

○今年度の研究について

- ・今回は、指導案の本時の目標が具体的で明確に記載されていた。資料の単元構想シートの、個々の目指す姿もより具体的にしていくことで、授業改善にも使いやすい資料になっていく。
- ・グループ協議では、授業者にとっては見えなかった姿や新たな気づきがあったと思う。半面、授業者が悩んでいる部分や見取ってほしい部分もあったのではないかと。全体で見取りのポイントを確認していくと、より建設的な意見が得られるのではないだろうか。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）

<授業について>

○お店を開店した後の振り返りの際に、授業中の映像を見せた。

- 映像を見ることで、自分の係の様子や、お客さんへどのように話していたかを思い出したり、お客さんから「おいしい」と喜んでもらったことに改めて気付いたりすることができた。「またお店を開きたい」や「次は〇〇先生を呼びたい」等、次の学習につながる発言もあった。



<抽出児童の支援について>

○製麺係に加えて「のり係」にも取り組んだ。

- 活動の回数を重ねるにつれて、のりを短冊状に上手に切ることができた。のりを切った枚数も増えた。「のりください」の友達の話聞いて、トングでのりをトッピングすることもできるようになり、自分の役割を最後まで果たすことができた。

○「お客さんに喜んでもらう」というゴールに向かって、お店に必要なものづくりをした。得意な折り紙を貼る活動でランチョンマットを作った。

- 折り紙や画用紙の色を自分で選び、デザインを自分で工夫しながら貼ることができた。また、自分の分を作った後に、休んだ友達の分を作ってほしいと教師からお願いされると、受け入れて友達の分も作った。

